和教時報

2024年12月15日（日）発行　第2016号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

和教組ゆるキャラ みぱん

未来をひらく教育のつどい in 那賀
多くの方がつどい大盛況 学びを深めた集会に

教育のつどい実行委員会　事務局長　山崎　浩廉

記念講演　安田さん

那賀高吹奏楽部

一一月二日（金）粉河ふるさとセンターで全体会、翌二三日（土）県立那賀高等学校において分科会が行われました。全体会でおよそ二二〇名、分科会で二五〇名の参加がありました。

全体会は那賀高校吹奏楽部の演奏で始まりました。「フレッシュな音と雰囲気で素敵でした。一週間ヘトヘトだったのですが、勢いのある演奏に元気をもらいました」「とてもハツラツとしてよかった！那高ＯＢとして誇らしかったです。五／三の定期演奏会楽しみにしています」「すばらしい。高い技術、元気が出る演奏でした」などの感想があり、会場みんなで盛り上がりました。

全体会　参加風景

続いて、安田菜津紀氏の「紛争地、被災地に生きる人々の声～取材から見えてきたこと～」と題しての講演でした。「生命の大切さを改めて考えるきっかけになりました。私もできることをしたいと思います。フォト（写真）の伝える力も初めて分かりました」「映像の持つ大きな力を感じました。死者の数や負傷者の数、そこには一人ひとりの生きてきた姿があり、その一つひとつを見ていかなければならないのだ！ということも含めて多くのことを感じて考えた講演でした」などの感想が寄せられました。

分科会

分科会では五八本のレポート報告がありました。今年も小・中・高・障害児学校からに加えて保護者や地域、関係団体などいろいろな立場からの報告があり、学びを深めることができました。分科会での感想を紹介します。

「授業づくりだけではなく、国語教育の本質にかかるわることまで議論できたので有意義な時間でした」「現在やっている実践の報告をさせてもらいました。やっていることを振り返る良い機会になりました。まだ、続きなので今日もらった意見を次に活かしていきたいと思います」「今回の分科会に参加させてもらい、教員としての視点だけでなく、親の視点、ＮＰＯ団体からの視点、ＳＳＷさんからの視点とたくさんの角度からのお話が聞け、とても参考になりました。『子ども自身が思っていること』を大切にして、子どもに寄り添った指導をしていきたいと改めて感じました」「地域づくりについていろんな角度から活動している方々と議論ができて、本当に勉強になりましたし、これからの地域を作っていく世代は私たちなので、子どもが自分の地域を愛せるように私自身も頑張っていかなければいけないと思いました」

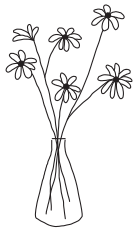
最後に、全ての参加者はもちろんのことですが、開催のために支えていただいた那賀支部と和高教第一支部を中心とした現地実行委員会のみなさまに感謝して、今後も学びの輪をひろげていきましょう。

輝いてワンショット　笑いあふれる分科会
（教育のつどいより）

ピンのスポット 426

修学旅行で、東京方面に行ってきました。行き先は、定番の国会議事堂、浅草、東京スカイツリー、ディズニーランドなどです。行程やルールなどは、実行委員会が主体となって考え、生徒の要望を可能な限り実現しながら取り組みました。生徒が決定したテーマは、「感謝を忘れず、笑顔がいっぱい修学旅行」でした。全行程を通じて、マナーやルールを守り、文字通り楽しい修学旅行となりました。ただ、旅費の六万六千円には驚かされました。インバウンド、ドライバー不足などの影響があるとはいえ、保護者への大きな負担を感じました。自治体が補助金を支給するような取り組みをすすめる必要を感じました。

（K）



和歌山ジビエを知ろう
捕獲 加工 消費のリサイクル！

栄養職員部　部長　黒田　麻友美

栄養職員部では、「和歌山の食を知ろう」というテーマの学習会を継続的に行っています。五回目となる今回のテーマは、「和歌山ジビエを知ろう」として、田辺市にある紀州ジビエ生産施設ひなたの杜さん、ジビエ料理をいただけるレストラン、キャラバンサライさんを訪れました。

今、農産物への鳥獣被害は深刻になっています。農家の高齢化、耕作放棄地が増えた、ハンターの減少等々、いろいろな要因が重なった結果ですが、その対策を行っている(株)日向屋さん代表の岡本さん、ジビエを生産、販売するひなたの杜の湯川さんにお話を聞きました。ひなたの杜を訪れた時、ちょうど猪と鹿が運び込まれ加工が始まっている最中でした。衛生管理を整えた施設内で加工されるジビエは、消費者にとっても安心して食べられる食材です。農業を守るために鳥獣被害対策として捕獲を行う、食肉として加工し販売する、家庭、レストランが消費するこのサイクルを立ち上げて運営を軌道に乗せているということに感心するばかりでした。

その後、バナナマンのせっかくグルメでも紹介されたキャラバンサライさんの地域の食材をたっぷり取り入れたランチを、更井シェフからジビエ料理についてのお話を聞きながら堪能しました。もちろん鹿肉のロティ赤ワインソースもしっかりと味わいました。

どれが何味？
アイマスクをして当てよう！

日高支部　青年部長　橋爪ありさ

一〇月一八日（金）に、日高支部の青年部定例会『リラックスフライデー』を開催しました。今回は、事前にGoogle formでアンケートをとり、五つのテーマからやりたいことを選んでもらいました。その中から特にやりたいという声が多かった、『利きうまい棒』と『折り紙カフェ』をすることになりました。

当日は、七名の先生方が集まりました。「エビマヨ」や「たこ焼き」など五つの味のうまい棒をアイマスクで目隠ししながら順番に食べ、どの順番に食べたかを最後に当てました。血走ったルフィの目の絵が描かれたアイマスクをつけた姿だけで、みんなで大盛り上がり。食べている人が一生懸命何味かを考えている姿も楽しかったです。

せっかくだから、レモン味の飲み物も利きゲームをしたい！という声が上がり、急遽近くのスーパーに買い出しに行き、ゲームをすることに。似たような味は利き分けるのが難しそうでした。「利き焼きそばも面白そう」など、今後の取り組みのアイデアが広がりました。

利きゲームだけで盛り上がりすぎ、結局折り紙カフェは持ち越しになりましたが、たくさん笑って、リラックスした金曜日を過ごすことができました。

みんなで真剣に遊び、笑った

紀見東中分会　星畑　徹平

今年は二四チーム一三二人が集う過去最大の親睦ソフトバレーボール大会となりました。性別・年齢に問わず、教職員が真剣に遊ぶ姿が見れるのはこの大会ならではであり、醍醐味であると思います。チーム数が非常に多いためニブロックのトーナメントを組み、各一位で決勝を行うようにしました。また、一度負けても敗者復活戦や最弱王決定戦を行い、複数回試合ができるようにしました。出場している選手はもちろん、各コートから熱のこもった応援や歓声も聞こえ、過去一の盛り上がりを見せた大会となりました。

閉会式では景品の授与を行いました。上位入賞者にはもちろん、最弱王や準最弱王といった勝てなかったチームにも景品がもらえるようにしました。また、いつも上位入賞できなかったチームは景品がもらえず味気ないと思っていたため、今年から入賞・最弱王以外の中間順位のチームにも抽選で景品を用意しました。商品券から日用品、お菓子の詰め合わせ、インスタントラーメンの詰め合わせなど、バラエティー豊かな景品を用意し、また和教共済から一〇〇〇円クーポンの抽選会を行うなど、大会並に盛り上がった閉会式となりました。

教職員同士が真剣に遊び笑いあう姿を見て、本当に開催してよかったと思います。参加者の皆さん・実行委員の皆さんありがとうございました。

あなたと一緒に声をあげていきたい

東牟婁郡支部　色川中分会　矢野　耕平

一一月一七日、太地中学校の体育館をお借りして、ソフトバレー大会を開催しました。今回はチーム数一〇チーム、総勢約六〇名の参加者となりました。まず、二リーグに分かれた予選リーグを行い、そこで勝ち上がった上位二チーム同士での決勝トーナメントを行いました。激戦の末、『おかちゃんず』がリーグ戦から通しての全勝で、見事優勝されました。大会の進行にあたり、コート準備や審判、片付けなどにご協力いただいた全ての先生のおかげで無事に大会を終えることができました。本当にありがとうございました。企画側として、これだけ多くの方に参加していただき、とても嬉しく思います。今回のように、多くの人数で交流し、親睦を深めていくことは組合活動の一つとして、とても大切なことだと感じています。そして、その交流の中から一人でも多くの方に組合について知っていただき、更には組合員として共により良い労働環境にしていくために、県や国へ声を上げていく一員となっていただきたいと思います。今後も様々なイベントを企画していますので、定期的に各学校に配布している組合からお知らせに目を通していただき、興味があるものがあれば、是非ご参加いただければと思います。

2024 確定交渉

賃金アップ、地域手当改善

組合運動に確信をもって、成果を語ろう

一〇月一五日から四回にわたり行ってきた確定交渉が、一一月一五日に妥結しました。結果はご存知の通り、昨年以上の賃金改善や地域手当、通勤手当の改善など貴重な前進を勝ち取りました。

こうした成果は、忙しい中で「職場要求書」や「賃金改善署名」などに取り組んだ教職員の運動によるものです。

中でも年度当初から課題としてきた地域手当は、いったん県教委が和歌山市・橋本市以外を〇%にすると回答するなど、交渉決裂の可能性もはらんだ緊迫した状況でしたが、最後は「和歌山市・橋本市は現状維持、その他地域は一・五%増」という前進を勝ち取ることができました。「同じ仕事なのに給料に差があるのはおかしい」「賃金格差が広がり人材が他府県に流出する」という私たちの正論を、人事委員会も県教委も否定することができませんでした。また、後に分かりましたが、これまでこの問題で「国準拠」を厳しく指導してきた総務省が、自治体独自の支給割合の設定に対して、ある程度寛容な姿勢を示したことも大きく影響しました。しかし、この総務省の姿勢の変化も、地域手当の矛盾を指摘する全国からの声におされたもので、やはり組合運動の重要性を感じずにはいられません。

職場には、依然としてたくさんの要求がありますが、要求を束ねて県教委と交渉する、また、全国の仲間とともに運動するためには教職員組合という組織が不可欠です。組合運動に確信をもち、多くの人にこの成果を語っていきましょう。

年末・年始

県教育会館閉鎖のお知らせ

左記の通り会館を閉鎖しますのでお知らせします。

12月28日(土)～1月6日(月)

和教共済WKKからのお知らせ

12月28日から１月６日まで事業センター閉鎖のため、和教共済の業務は、休業となります。

自動車事故等発生時の連絡先

フリーダイヤル（24時間）

0120-36-7860

その他のご用件については1月5日以降に☎073-436-7860和教共済にご連絡下さい。

教職員と家族を守る

全教自動車保険

教職員の交通事故には特別な事故対応が必要です

なぜ特別な対応が必要なのか？その理由は50秒でわかる動画で

WEBでかんたん見積り依頼

かんたん その1　どちらかご用意ください

- 現在自動車保険に加入中の方：保険（継続）証書（裏表）　※満期のご案内でも可
- 初めて自動車保険に入る方：見積依頼ページへアクセスしてください

かんたん その2　見積依頼ページから入力

ホームページ　https:zenkyo-kyosai.jp/car/

全教自動車保険は、全教各教職員組合と東京海上日動が提携して行う団体扱・集団扱の自動車保険です